

## 第24回 飯田女子短期大学学内研究集談会

### Part 1 口演・報告

日時：令和2年2月14日(金) 9:00-11:15 会場：飯田女子短期大学視聴覚室

#### プログラム

- 9:00 開会の辞および挨拶
- 9:05 口演：フィジカルアセスメントにおけるシミュレーション演習の学習成果の検討(第1報)  
..... ○鈴木真由美・田中敦子・下島 浩・牧野寛美・下村美枝子
- 9:25 報告：成長期のスポーツ選手を対象とした食育事業の活動報告  
(2019年度 長野県地域発元気づくり支援金活用事業)  
..... ○岩瀬彩香・友竹浩之・片山直幸・林 正樹・稲吉政岳
- 9:45 口演・FD：災害ボランティアの体験が与える学生の意識変化～学生の意識調査から～  
..... ○伊藤みき・小笠原京子
- 10:05 口演：報告 学校・家庭・地域と連携した歯・口の健康と口腔機能回復のための啓発活動  
..... ○安富和子
- 10:25 休憩 (10分)
- 10:35 口演：病気とともに在宅で生きる高齢夫婦の関係の進展..... 矢澤玲子
- 10:55 報告FD・SD：キャンパスライフに対するアンケート結果(令和元年度)  
..... ○稲吉政岳・林 正樹・渡邊千春・神坂恵行・桑原真裕子  
竹村 香・新井奈津美・小池美津貴・岩崎みすず・三浦弥生
- 11:15 閉会の辞

### Part 2 展 示

日時：令和2年1月14日(火)-2月14日(金) 会場：飯田女子短期大学本館廊下掲示板

研究ポスター 4点

## 口 演

# フィジカルアセスメントにおけるシミュレーション演習の 学習成果の検討（第1報）

鈴木真由美・田中敦子・下島 浩・牧野寛美・下村美枝子

### 報告の概要

今回、基礎看護学領域におけるシミュレーション演習の学習効果を測定し、学習方法の課題を明らかにすることを目的とした調査の途中経過を報告する。\*調査対象の授業は1月24日であったため、現時点での分析の報告である。

### 研究方法

**調査対象**：2018・2019年度の後期授業科目・基礎看護技術論Ⅳ、第14、15回のシミュレーション演習を履修した1年次学生105名のうち調査への協力を得られた98名

**調査方法**：授業終了後、倫理的配慮を文書と口頭で説明した後、自記式質問紙（以降、質問紙）調査を実施し、回収ボックスに投函された質問紙（留め置き法）を分析対象とした。質問紙の質問項目は、2017年の質的研究<sup>注)</sup>で得られた36項目であり「そうである」～「そうでない」の4件法で尋ねた。

**分析方法**：統計的分析（SPSS Statistics Base）を実施した。今回は単純集計と相関関係を分析し報告する。分析においては信頼性・妥当性を確保するために、量的研究に詳しい研究者からスーパーバイズを受けた。

### 結果・考察

質問紙の配布105枚、回収率93%、有効回答率100%であり98枚の質問紙を分析対象とした。平均値の高い質問項目（以降、項目）は【他者の気づきが参考になる】3.98、【振り返ることによってわかることがある】3.93、【思考が深まる】3.93であった。いずれもデブリーフィングに関する項目であり、自由記述に

は「気付いたこと・疑問点を共有し解決につなげることができた」「グループの意見により発見や考えがあって学びが深められた」といった気づきやグループ学習の効果に関する記述があった。学生は、学習すべき要素以外にどのように学ぶかを体感していた。シミュレーション演習が目指す振り返り、気づき、知識と行動をつなげるという学習成果があったといえる。一方で「自分の勉強不足に気がかりした」という動機付けにつながる記述や「担当教員によって理解の差がある」といった指摘もあった。シミュレーション演習は、授業を設計しデザインする教員の教育実践力に左右されるという限界もある。研修への参加とその情報の共有、演習におけるコンセンサスやコーチングスキルを向上させることは必須である。シミュレーションの体験では「今まで看護師役をしなかったけど体験してみて緊張はしたけどやって良かった」「実際やった人を見ていると緊張したけど良かったという感じだった。やれば良かった」という記述があった。看護師役に挑みたいと思える仕掛けが必要である。

相関関係の分析において強い正の相関を認めたものは【観察の優先順位がわかる】と【援助の優先順位がわかる】( $r=.783 P<.01$ )、【ケアの根拠を理解できるようになる】と【考える力が身につく】( $r=.707 P<.01$ )の4項目であった（Pearsonの相関係数）。観察の優先順位がわかるように導くことは、考える力を身につけることにつながるか否か、今後検証していきたい。

\*この調査は、飯田女子短期大学研究倫理委員会の承認を得ており(30-1)、研究に関する費用の一部は学内共同研究助成金をうけて実施している(30A01)。

\*注 鈴木真由美他：基礎看護学領域のシミュレーション演習における学生の体験と学びの様相，飯田女子短期大学紀要，34，47-67，2017。

## 報 告

# 学校・家庭・地域と連携した歯・口の健康と 口腔機能回復のための啓発活動

安 富 和 子

### 【背 景】

加工食品等の食べ物の軟食傾向により、嚙まなくても済む食生活の弊害として、子どもたちの顎が小さくなり、不正咬合等の歯並びや歯肉炎等の問題を持つ児童生徒が増加傾向にある。

学校給食においては嚙めない、嚙まない、飲み込めないと言った食べ方に問題を持つ子どもたちの実態がある。また、最近では高齢者のオーラルフレイル（口腔機能低下）が注目されている。

### 【目 的】

子どもから高齢者の歯・口の健康と口腔機能回復のため、大学が、学校・家庭・地域・関係機関と連携し活動を行うことで、健康寿命延伸に繋げていくことを目的とする。

### 【方 法】

#### 《咀嚼啓発活動》

#### 1 「かみかみリレー」の実施

- ①平成31・令和元年度参加団体は小・中学校5校、保育園2園、行政機関等4ヶ所であった。かみかみリレーは平成25年の開始以来

のべ63校となった。(長崎県10校・熊本県1校・岐阜県1校・静岡県1校・長野県50校) 今年度は児童・生徒のみでなく、保護者も参加し学校が家庭と連携して行う傾向が見られた。また、食生活改善普及員の会(飯田市・長野市)や高齢者の会(中川村)の参加が増えた。

- ②平成30年度長野県元気づくり支援金の活動において「かみかみりレー」が長野県地域振興局特別賞を受賞した。(令和元年12月18日)

## 2 「かみかみ大使カミン」活動

- ①ゆるキャラグランプリ2019 in さわやか信州への参加。

長野市オリンピック記念アリーナ・エムウェーブ特設会場で開催され、長野県を盛り上げるとともに、咀嚼の啓発活動及び台風19号の募金活動を行う目的で、かみかみサークルの学生3名と安富が11月3日に参加した。

- ②駒ヶ根工業高校との連携

駒ヶ根工業高校「助っ人同好会」と連携し、咀嚼の啓発グッズの開発について話し合いを行った。

カミンのストラップを制作してもらい、ゆるキャラグランプリの会場で販売し、台風19号の援金とした。また本学学生、教職員、地域の方々にも募金を呼び掛け、33000円が集まり、助っ人同好会の募金と一緒にして被害の大きかった長野市に送金することができた。

## 3 咀嚼啓発ポスターの配布

- ①平成30年度に作成した咀嚼啓発ポスター「かみかみシリーズ」三部作を上伊那・下伊那地区の保育園・幼稚園、小中学校等へ配布した。カミンがモチーフで親しみやすい、内容がわかりやすい、食育や保健指導に使用した。A3サイズなのでカラーコ

ピーして各教室へ配布した。などの意見をいただき活用してもらえた。

## 4 長野県ACEプロジェクトへの参加

- ①昨年度に続き、飯田保健福祉課主催のACEフォーラムin南信州に参加し「かみかみセンサー」の体験とカミンによる咀嚼の啓発を行った。

## 5 高齢者への指導

- ①口腔ケアと咀嚼の大切さ、口腔機能低下や誤嚥性肺炎予防のためのトレーニングの指導を、公開講座や地区の高齢者の集会でを行った。

## 6 日本咀嚼啓発学会の設立

- ①令和元年5月1日、日本咀嚼啓発学会(別名かみかみ学会)を立ち上げた。

平成23年から行ってきたカミン会議を改名し日本咀嚼啓発学会とし、かみかみりレー参加校の養護教諭・栄養士・歯科衛生士・大学教員等の参加で、咀嚼の啓発活動を行っていく。

## 【結果】

平成13年度より様々な咀嚼啓発活動を行ってきた結果、地域の咀嚼の知識や意識は少しずつ高まっているように思う。また、かみかみ大使カミンの知名度も少しずつ上がってきているように思う。

## 【今後の課題】

今後も地域の大学としてリーダー的な役割を担いながら、学校、家庭、地域、関係機関と連携し、食における問題解決と研究、研修を積みながら、咀嚼の啓発を行っていく。更にかみかみ大使カミンの活動の継続と、咀嚼啓発グッズの開発にも取り組んでいく。また、高齢者のオーラルフレの改善について指導していくことが大切だと思う。